

本邦で生息が確認されたパンプキンシードサンフィッシュ
藤田 朝彦・森 由利子（環境省中部地方環境事務所）

パンプキンシードサンフィッシュ *Lepomis gibbosus* は、北米原産のサンフィッシュ科ブルーギル属魚類である。いわゆるブルーギル属としては、ブルーギルの次に一般的な種と考えられ、ヨーロッパには移入定着が確認されている。本邦では、かつては観賞魚として一定程度流通していた様であるが、野外に定着した報告は見られない。ただし、インターネット上では 2022 年に野外で採捕された事例がみ確認されるものの、場所の詳細等は不明であった。今回、石川県にて本種が確認されたため報告する。

確認されたのは石川県内のため池であり、令和 6 年 9 月に、20 個体程度が捕獲され、そのうち 4 個体を精査した。これらの個体は、鰓蓋のフラップにオレンジの斑紋がある、体側に茶色に縁取られた斑紋が散在する、不對鰭に斑紋がある、といった外見的特徴からパンプキンシードサンフィッシュと判断した。これらの標本は、琵琶湖博物館の登録標本とした。なお、現在仔稚魚は確認できていないものの、多くの個体が採捕されていることから、池内で再生産している可能性はきわめて高いと考えられる。

パンプキンシードサンフィッシュは、現在未判定外来生物に指定されている。そのため、本邦への輸入については規制があるものの、国内での飼育や運搬については規制が無い。本種の由来や導入の意図は不明であるが、今後、物珍しさによる採捕や飼育、他の場所への放流等が生じることは容易に想定し得る。2024 年には同じくブルーギル属のロングイヤーサンフィッシュ *L. megalotis* の岐阜県における定着が報告されており、日本には現在 3 種のブルーギル属が生息していることになる。これら新しく確認されたブルーギル属魚類が今後拡散した場合、日本の生態系に大きな影響を与えることは想像に難くない。今後、これらの種についてのより適切な法規制等を検討していく必要があると考えられる。

